



職員紹介 04

丸井 美奈子

Minako Marui

平成17年度採用
統計利用推進課
情報企画係長
経済学部出身

あなたの現在の仕事を教えてください

調査結果を広く国民のみなさまに利活用していただく

統計局で所管している統計調査について、調査結果を広く国民のみなさまに利活用していただくための取組を担当しています。具体的には、統計データを活用したデータサイエンスを学べるオンライン講座の構築や、地方公共団体における統計データを活用した取組で優れたものを表彰する統計利活用表彰、また統計局の業務についての取材対応なども行っています。

多岐にわたる業務のため様々な分野の関係者との調整業務が発生し、打合せや撮影の立会いなど外勤も多い仕事です。時には調査結果の活用事例の収集のために企業訪問を行うことや、統計の利活用を推進するための統計局の取組について周知を依頼するため関係機関を回ることもあります。

仕事の魅力は？

統計が様々な分野で活躍していることを実感

統計の作成に携わるものとしては、やはり様々な場面で調査結果を有効に活用していただいていることがやりがいにつながっています。

統計調査について新聞記事に掲載されることや、報道番組で取り上げられることはもちろんですが、今の仕事では、自治体や企業の方から直接、統計を行政サービスの向上や新規ビジネスに活用されているお話を伺う機会も多く、一生懸命作成した統計が多くの方に必要とされ、また、様々な価値を生み出して社会全体の役に立っていることが実感できます。

仕事をするときに大切にしていることは？

仕事のヒントは何気ない会話の中に

仕事をする上で大切にしたいと思っていることは、周囲とのコミュニケーションです。日々の業務の進捗状況を担当内で共有することはもちろん、わからないことがあったら周りの人に教えてもらい、自分が協力できることがあったら声をかけるなど、みんなで仕事を進められるよう心がけています。

何気ない会話から仕事のヒントが得られることはたくさんありますし、悩んでいることを思い切って聞いてみたらあっという間に解決した、ということもあります。また、失敗があった場合もみんなでリカバーできますので、一声かけてみるということの大切さを日々実感しています。

入省したきっかけは？



統計はなくてはならないもの

学生の時にゼミのレポートで女性の労働力について調べたことがあり、その際に統計局のHPで労働力調査の調査結果を確認しました。当時はいろいろな調査があるんだなという程度の認識でしたが、国家公務員を目指すに当たって各省庁の業務を調べていたところ、総務省統計局を発見し、興味を引かれたので官庁訪問を行いました。当時の面接官から、統計はあって当然、ないと困る存在だと言われました。社会生活に欠かすことのできない統計の作成に携わろうと思ったきっかけです。

統計局は女性の職員も多く、男女関係なく様々な業務を担当することができます。ぜひ統計局で国民全体の未来に役立つ統計を作成しませんか。

一日のスケジュール

10:00

外勤

オンライン講座に掲載する統計データ活用事例のインタビュー動画撮影のため、企業を訪問。

12:00

ランチ

外勤先周辺でランチ。

13:00

登庁

職場に戻りメールをチェック。

14:00

資料作成

明日の定例報告用の資料を作成し、担当内で確認。

15:00

打合せ

統計局の業務について取材の申込みがあったため、詳細についてヒアリング。

17:00

関係各課との調整

ヒアリング概要を取りまとめ、対応について課長レク。その後関係各課と取材の日程調整。

19:00

退庁

キャリアステップ

平成17年

統計局統計調査部
消費統計課物価統計室

平成20年

統計センター製表部管理企画課

平成22年

内閣府青年交流第三担当主査付

平成24年

統計局統計調査部